

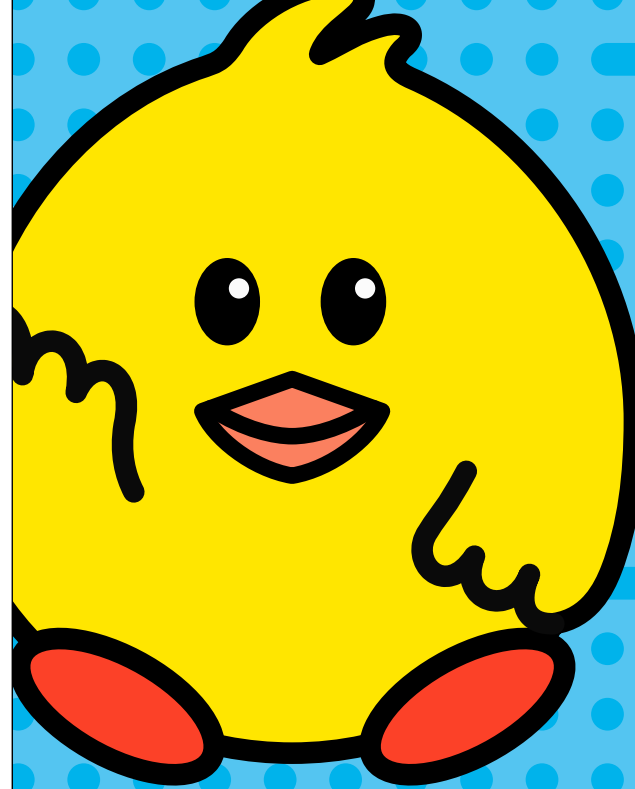
夢のとなりで街づくり、
宝くじの収益金。



たとえば道路、橋、学校、社会福祉施設、
街路樹、公園の遊具などなど…。

宝くじの収益金は、皆さまのごく身近なところで
さまざまなカタチとなって、
快適な暮らしに役立てられています。

宝くじ



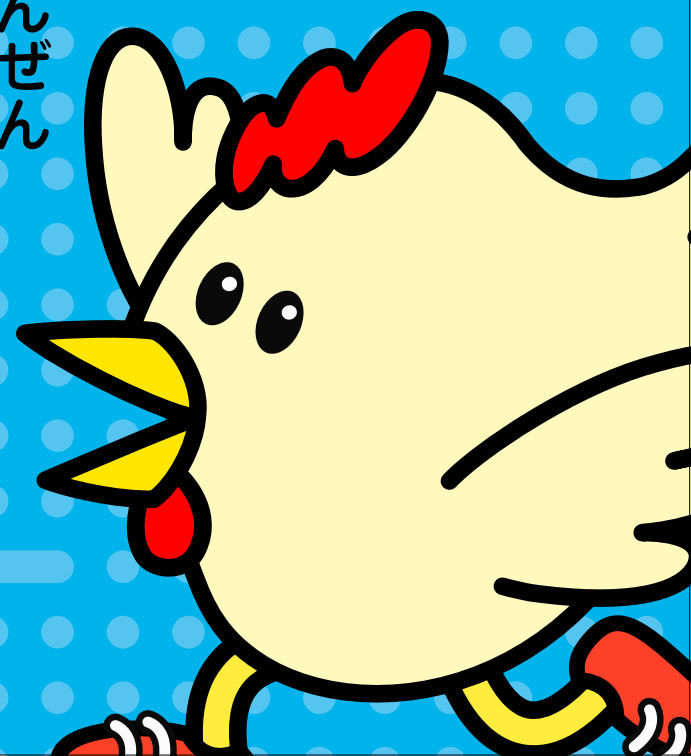
なかよく

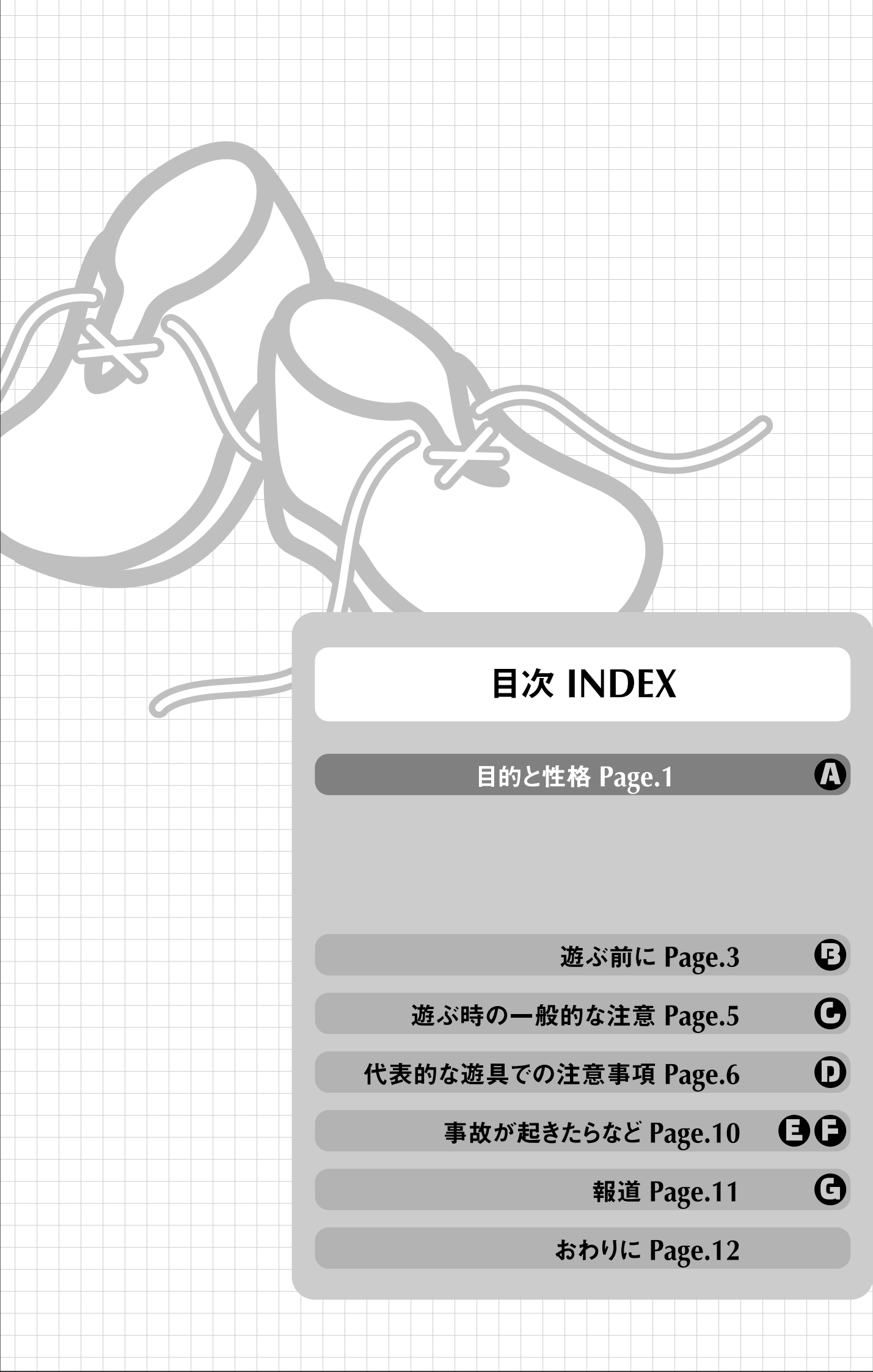
あそ

あんぜん

仲良く遊ぼうと安全に

子どもの指導者と保護者のために





目次 INDEX

目的と性格 Page.1

A

遊ぶ前に Page.3

B

遊ぶ時の一般的な注意 Page.5

C

代表的な遊具での注意事項 Page.6

D

事故が起きたらなど Page.10

E F

報道 Page.11

G

おわりに Page.12

仲良く遊ぼう安全に

はじめに

子どもの指導者と保護者のために

このパンフレット（テキスト）と添付のポスターとは遊具と遊び場に関わる事故を軽減することを目的として、子どもを見守り指導する指導者と保護者のために、社団法人日本公園施設業協会（以下、JPFAと略します。）が制作したものです。制作に当っては明治大学の岩河信文教授を委員長とする調査委員会を設けて内外の資料を調査分析し入念に検討しました。委員の方々に心から謝意を捧げます。このパンフレットが広く活用されることにより、子どもたちに必要不可欠な遊びがより楽しく安全に行なわれることを望みます。

（社）日本公園施設業協会会長 栗田嘉嗣

A-1 目的と性格

子どもと遊び

創造性
主体性
向上

必要な危険
リスク

不必要な危険
ハザード

遊ぶ
子どもの
努力

1) 子どもと遊び

子どもは遊びを通していろいろな難しいことに挑みながら、体も心も発育・発達し、創造性、主体性を向上させます。また他の子どもとの遊びは情緒的、社会的、道徳的、そして知的発達をもたらします。子どもにとって遊びは不可欠だし、そもそも子どもは遊ぶ権利があります！そして遊具は子どもに遊びを提供する大切な道具です。

2) 遊具と危険

遊具で遊ぶ場合に危険が伴うことがあります。遊びにはある程度の危険が必要で、これへの挑戦が楽しさに繋がります。遊びの楽しさに必要な危険を「リスク」といいます。一方、遊びの楽しさに無関係で不必要な危険を「ハザード」といいます。リスクは適切に見守りつつ遊ばせ、しかしハザードは取り除く必要があります。ハザードには人に関わるものと物に関わるものとがあります。利用者の不適切な行動も、遊具の不全と同じくハザードと言えるのです。遊具の事故はどちらかの、あるいは双方のハザードに起因するので、とりわけ大事故につながるハザードはすぐに対策が必要です。

3) 人に関わるハザードを無くしたい

物に関わるハザードの除去はもとより大切で、遊具の製造業者など遊具を「つくる」立場の人々、公園、学校、幼稚園、保育所などで遊具を管理する「まもる」立場の人々がそのために努力する必要があります。遊具を「つくる」立場のJPFAは、平成14年3月に国土交通省が発表した「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」に沿って同年10月に「遊具の安全に関する規準（案）JPFA-S:2002」を策定し公開しました。JPFAはその内容を遊具を「まもる」立場の方々に説明するとともに、安全点検の実施を呼びかけ講習会を開催しております。こうして物に関わるハザードの除去は図るとしても、事故を防ぐためには遊具で遊ぶ子どもたち、つまり遊具を「つかう（遊ぶ）」立場の配慮がぜひとも必要なのです。

このパンフレットの目的は人に関わるハザードを無くすることです。子どもは遊びながら危険と付き合う力を体得してゆくもので、これにより大きくなってからも生活の中で危険を見分け、ハザードになるような行動を避けるのです。しかし重大な事故は絶対に起きてはなりません。子どもの指導者、保護者が重大な事故につながる可能性のあるハザードについて理解し、安全な遊び方などを子どもたちに教えていただくためにこのテキストを作りました。

A 仲良く遊ぼう安全に

4) 仲良く遊ぶ大切さ

子どもは1人で遊んだり、友達や仲間と遊んだりします。遊び場にはほかの子どもたちもいるでしょう。大きな子ども、小さな子ども、いろいろです。お互いに気を配り、仲良く遊ぶことは事故防止につながります。

A-2 対象とする子ども

このテキストの対象とする子どもは**3歳**から**9歳**ぐらいの子どもです。

この年齢の子どもは遊びに関する好奇心は旺盛ですが、体格・体力が伴わず危険を避ける判断力も不足していることから、大人の想像を超えた行動に走り大きな事故を引き起こすことがあるのです。なお、1人で遊べないような小さい子どもを無理に遊具で遊ばせたり、明らかに年齢不適合な遊具で遊ぶことは危険を伴います。

A-3 このテキストの使い方

ポスターは子どもの注意をひくような**目立つ**ところに掲示してください。テキストは子どもの遊びの指導に用いてください。

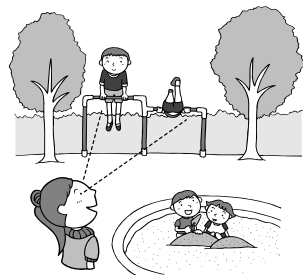
子どもの**年齢に応じて、わかりやすく**ご説明ください。さらに子どもの家庭での指導のために、コピーして保護者に配布することをお勧めします。

保護者の方々にもこのテキストの内容をよく理解していただきたいのです。

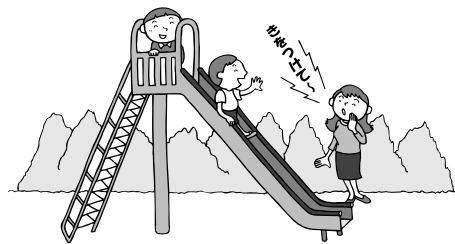


A-4 子どもを見守ろう!

遊び場で遊ぶ子どもを見守る場合は、子どもの年齢や遊びに伴うリスクの難易度に応じて「**目が届く位置**」か「**声が届く位置**」あるいは「**手が届く位置**」を探して、そこから子どもを見守ってください。遊び場の外に不用意に飛び出さないよう注意することも必要です。



目が届く位置



声が届く位置



手が届く位置

A-5 くれぐれもご注意を!

前述のように、子どもは遊びの中から危険について学び、より大きな危険を避ける能力を身につけます。事故を恐れるあまり、ハザードのみならずリスクまで除去すれば遊具も遊び場も魅力を失い、子どもは遊び場で遊ばなくなるでしょう。危険を強調しすぎて子どもから遊びの楽しさを奪わないよう、くれぐれも**ご注意**ください。

B 遊ぶ前に

B-1 遊ぶときの服装は?

動きやすい服装を。ひっかかったり、絡まったり、脱げやすい衣服や靴は危険です。着衣のひもや肩掛けカバンベルトが首にかかって大事故に至った事例があります。

- ① 上着の前を開けっ放しにしない。
- ② マフラー、ひも付きの手袋はとる。
- ③ パーカーなど、首のまわりにひもの付いた衣服は身につけない。
- ④ かばん、水筒、ランドセルは外す。
- ⑤ 怪我を避けるため脱げにくい靴をはく。
- ⑥ くつひもはしっかり結んでおく。



B-2 遊び場へ行くときは?

- ① できるだけ安全な道を選ぶよう習性づける。
- ② **どこで だれと 何時まで** 遊ぶかを保護者に伝えるよう習性づける。



B-3 遊び場は安全か? あらかじめ確かめておこう!

- ① 遊具は壊れていないか?
- ② 石ころやガラスのかげらは落ちていないか?
- ③ 遊具の下や周りにコンクリートやブロックがないか?
- ④ 小さい子どもには、その年齢に適した遊具があるか? それは大きい子ども用の遊具と近すぎないか?

